

北

齋

決

定

版

ゴールデンウィークも終わり、中間テストまでもう少し。体調を整えつつがんばりましょう。いま、明石市立文化博物館では「北齋漫画」展が開催中。江戸時代の浮世絵師・葛飾北齋といえば、「富嶽三十六景」などのイメージが強いと思いますが、マンガも描いていました。その名も「北齋漫画」。初編序文に「題するに漫画を以つてせるは、翁のみずからいへるなり」とあり、北齋が「漫画」（漫ろに描いた画）と題を命名したと記されています。その「北齋漫画」には、人物、動植物、建築物、妖怪に至るまであらゆるものが描かれています。ストーリーのある今の漫画とは少し違って、「絵手本」といわれる北齋の門人や愛好者のための教本であり図案集、百科事典のようなものでした。当初は1冊完結の予定でしたが、予想以上の売れ行きでベストセラーに！北齋没後も新編が刊行され続け、15編が世に出されました。卓越したデッサン力と構成のセンスがうかがえる、充実の3900図余り。おもしろい絵やかわいらしい絵もたくさんあり、当時の江戸の暮らしが身近に感じられます。あらゆる絵を多様なポーズで描いた北齋。軍鶏や雉などはのちに肉筆画の主題にも取り上げられています。1856年には、パリの版画家フェリックス・ブラックモンが日本から送られた陶磁器の梱包に使用された『北齋漫画』を見つけ、「ジャポニスム」が起こるきっかけになったと言われています。江戸時代の日本の絵が海を越えてヨーロッパでブームになるなんて、すごいですよね。1997年にアメリカの雑誌『ライフ』が企画した「この1000年で最も重要な功績を残した世界の人物100人」に選ばれた唯一の日本人である北齋。90年の生涯、ひたすら描くことにつとめ、みずから画狂人を名乗った天才の絵を、あらためて見てみませんか。

葛飾北齋

1760～1849年。江戸時代後期の浮世絵の絵師。19歳のときに浮世絵の第一人者だった勝川春章に弟子入りし、黄表紙などをえがいた。のちに新たな画風をめざし、号を葛飾北齋とあらためると、多くの読本(小説)のさし絵をかく一方、庶民の生活を生き生きとえがいた『北齋漫画』とよばれる絵をかいた。さらに、西洋画の技術を学んで、浮世絵のなかに「風景画」という新しい分野を生みだした。なかでも『富嶽三十六景』が有名。その独特の色づかいや大胆な構図は、19世紀後半のフランスの印象主義の絵画に影響をあたえた。

「浦上コレクション 北齋漫画」

4/17～5/23 明石市立文化博物館

「GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」

4/24～7/4 神戸ゆかりの美術館

「巨匠の愛した北齋、広重」

3/2～8/29 大阪浮世絵美術館

「HOKUSAI」5/28 公開

「眩」朝井まかて
北齋の三女・葛飾応為のおはなし。